

個人投資家向け説明会資料

2024年2月6日

(証券コード：9536)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づき判断した予想であり、実際の業績等は様々なリスクや不確実性等の要因により大きく異なることがあります。



資源をぐるぐる (カーボンニュートラルに挑戦中!)



まちをぐるぐる (にぎわいとつながりのあるまちづくりを!)



人をぐるぐる (多様な人材が活躍できるグループへ!)



みんなをぐるぐる巻き込んで 未来をつくるぐるぐる

1. 西部ガスグループの概要 P. 2
2. 西部ガスグループの成長戦略 P.13
3. 第3四半期の決算概要と業績見通し P.23
4. サステナビリティへの取り組み P.26
5. 本日のまとめ P.30

1. 西部ガスグループの概要

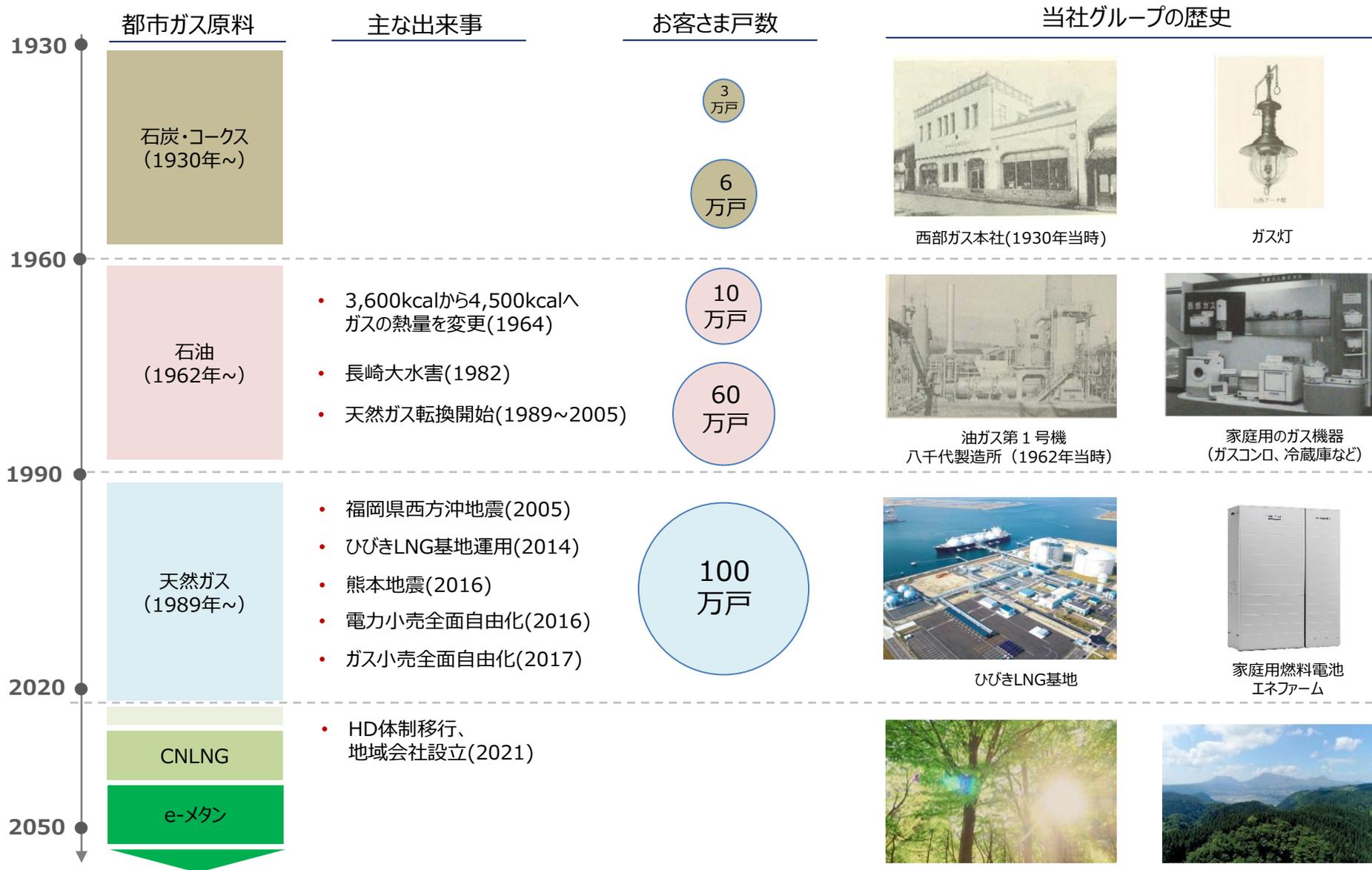
西部ガスホールディングス株式会社

2023年9月30日現在

- 設 立 : 1930年 (昭和5年)
 - 資 本 金 : 206億円
 - 従 業 員 数 : 3,801名(連結)
 - 連結子会社数 : 45社
 - 主な事業内容 :
- 中核事業のガスエネルギー事業
(都市ガスの導管、工場等)



事業区分	事業内容
ガスエネルギー	都市ガスの製造・供給及び販売、都市ガス配管工事の設計・施工、都市ガス用ガス機器の販売、LNGの販売 LPGの販売、LPG用ガス機器の販売並びに施工
電力その他エネルギー	電力販売、熱供給事業、太陽光・風力発電事業
不動産	土地及び建物の賃貸・管理、住宅建築・宅地開発及び不動産の販売、リフォーム事業
食関連その他	食品販売事業、情報処理事業、飲食店事業、介護事業等



2021年4月から純粋持株会社体制へ移行し、地域会社を設立しました。
あらたな体制で、外部環境変化への対応や内部改革をさらに推進していきます。

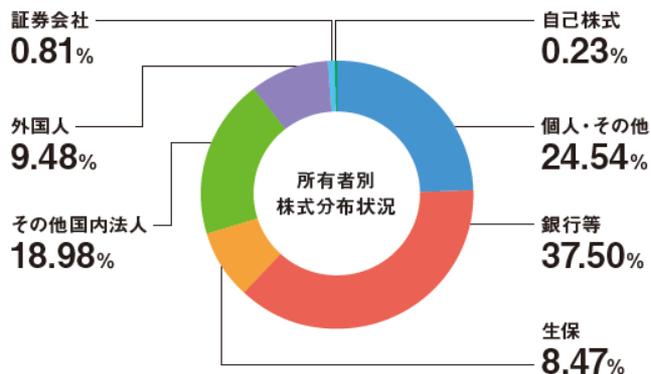


■ 株式情報

2023年9月30日現在

発行可能株式総数 8千万株
 発行済株式総数 3,718万7,567株
 株主数 11,523名

【所有者別株式分布状況】



■ 配当情報

「安定配当」が
基本方針

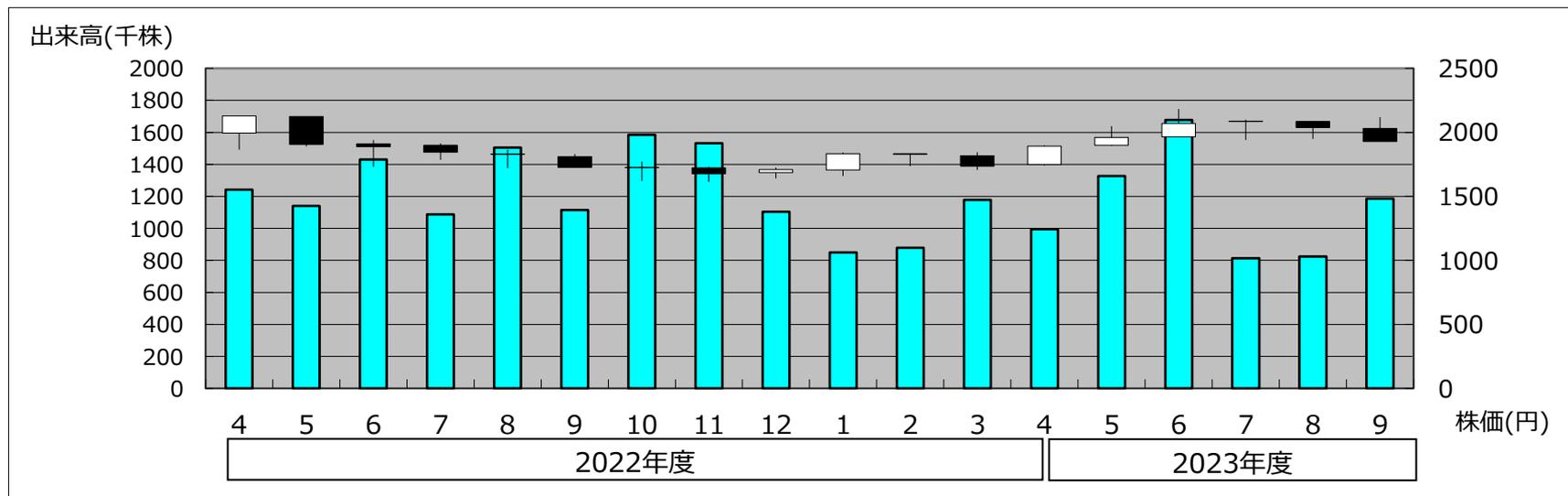
当社の配当利回り※

4.0%

※2023年3月31日終値
(1,735円/株) で試算

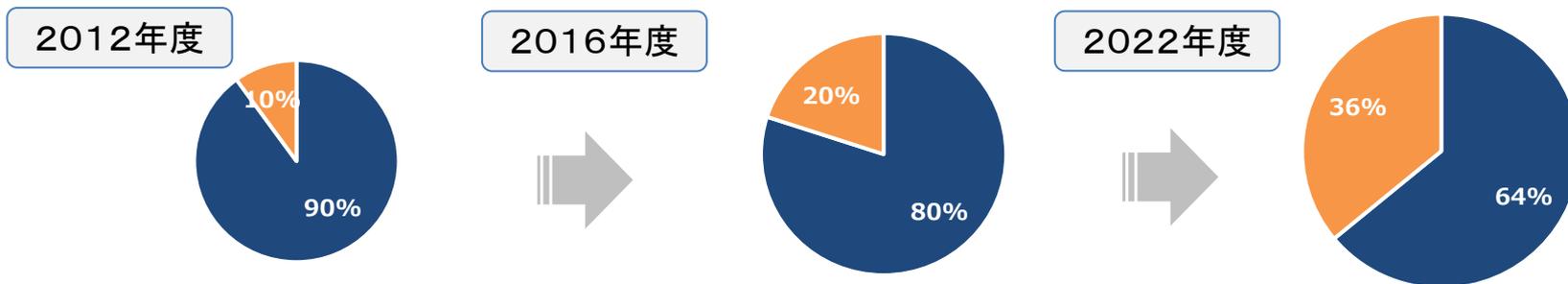
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年間配当 (円/株)	70	70	70	70	70

■ 株価・出来高情報



**エネルギーと暮らしの総合サービス企業グループとして、
中核であるガスエネルギー事業の競争力強化を図るとともに、
電力その他エネルギー事業や不動産事業を成長させます。**

【売上高構成比】

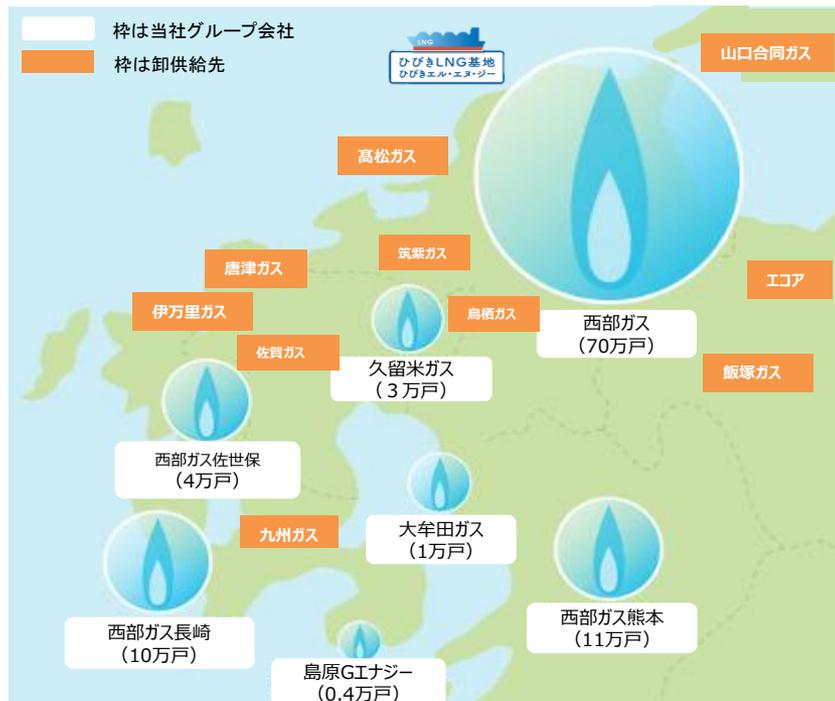


■ 売上高構成比：ガスエネルギー事業 ■ 売上高構成比：ガスエネルギー以外の事業



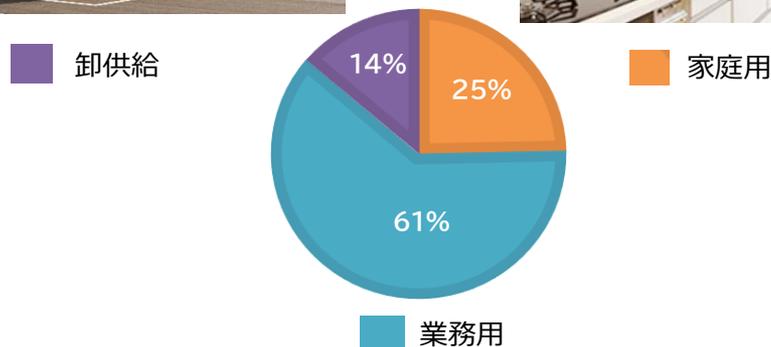
天然ガスの広域供給

- ✓ 「ひびきLNG基地」でLNGを受け入れ、各地に天然ガスを供給



都市ガス販売量の構成比

【2022年度 都市ガス販売量構成比】



ローリによるLNG出荷

- ✓ 他ガス事業者さま、産業用のお客さまへLNGをローリ輸送
- ✓ 「ひびき基地」の出荷設備は、国内最大規模の12口を設置



ひびきLNG基地 出荷設備

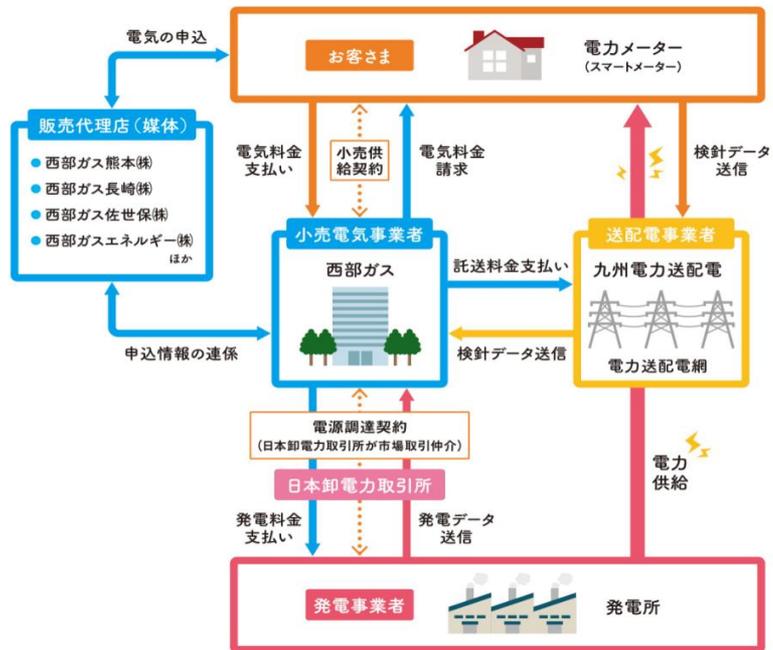
プロパンガス (LPG) 事業

- ✓ 都市ガスのインフラが及んでいないご家庭にもプロパンガスを提供
- ✓ 設置や復旧が容易なため、災害に強い分散型エネルギーとして利用



小売電気事業

- ✓ 2016年4月から、小売電気事業へ参入
- ✓ ガスと電気エネルギーをトータルで提案し、お客さま価値の向上を図る



国際エネルギー事業

- ✓ ひびきLNG基地の立地を活かし、LNG需要が拡大する中国・東南アジアにLNGを再出荷



再生可能エネルギー事業

- ✓ 2022年度末時点で、太陽光発電事業は17か所、風力発電所は1か所運用し、発電規模の合計は51.1 MW
- ✓ 1年間の発電量は、一般家庭の約16,700世帯分（2022年度実績）



※2023年9月末時点で、あらたな太陽光発電所 4 か所の運用開始（詳細は後述）

【発電所の一例】



エネ・シード(株)
北九州風力発電所



エネ・シードひびき(株)
ひびき太陽光発電所

国内不動産事業

- ✓ 九州・山口地域を中心に、分譲マンションや戸建分譲などを展開
- ✓ 暮らしの中のエネルギーと関連の深いサービスを拡充



(株)エストラストの分譲マンション



九州八重洲(株)の戸建住宅



西部ガス都市開発(株)の賃貸物件



西部ガス都市開発(株)
研究施設や商業施設、店舗、賃貸住宅で構成
する複合研究開発次世代拠点「いとLab+」

海外不動産事業

- ✓ タイなど中長期的にさまざまな不動産需要が見込まれる地域で、戸建分譲やコンドミニアム賃貸事業を展開



SG ENRICH Co., Ltd.の戸建住宅 (タイ)



SAIBU GAS(THAILAND) Co., Ltd.の
コンドミニアム (タイ)

レストラン・フードサービス事業

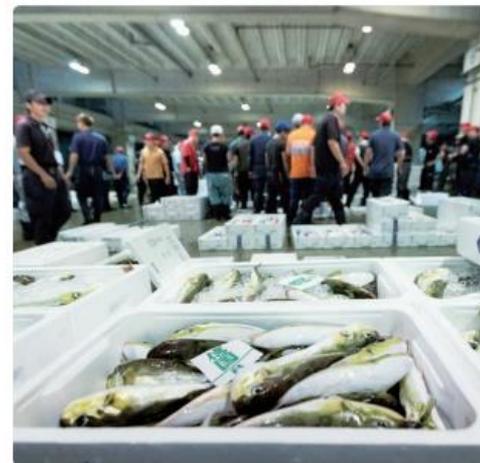
- ✓ 炎が作り出す高品質の料理やサービス提供
- ✓ 美味しい料理を通じて、ガスの魅力を積極的に発信



(株)八仙閣が運営するレストラン・宴会場

食品加工製造・販売

- ✓ 福岡中央魚市場(株)は、鮮魚市場の荷受けとして生鮮水産物の委託販売(セリ売り、入札など)や、水産冷凍品の販売、冷凍及び生食用水産物の加工販売等を実施



福岡中央魚市場(株)のセリ売りの様子

フランチャイズ事業

- ✓ 食関連のフランチャイズ事業を展開
- ✓ 当社グループになかった新たな運営ノウハウを吸収し、サービス品質の向上や事業効率の向上を図る



(株)八仙閣が運営する「韓井」

水耕栽培野菜の製造・販売

- ✓ 安全で安心な食生活を提供したいという思いから、エスジーグリーンハウス(株)では、「JGAP認証」※を取得し、リーフレタス「うるおい野菜」を生産・販売

※JGAP認証は、持続可能な農業経営に取り組む農場与えられる認証です。



エスジーグリーンハウス(株)が栽培する「うるおい野菜」

温浴事業

- ✓ (株)ヒナタの杜が運営を行う温浴「ヒナタの杜 小戸の湯どころ」は、お風呂や床暖房の温もりを感じる温暖ルームを併設し、利用者の皆さまに我が家にいるようなゆっくりとくつろげる「空間」と「時間」を提供



解放感のある
露天風呂



ゆっくりくつろげる
温暖ルーム

セキュリティ事業

- ✓ アイランドシティ「照葉のまち」でタウンセキュリティを実施
- ✓ 子どもたちの登下校時に合わせたパトロールも行っており、安全を見守る体制が充実



パトロールカー
による巡回



登下校に合わせた
パトロール

高齢者サービス事業

- ✓ 西部ガスライフサポート(株)では、福岡市内で有料老人ホームを運営し、高齢化社会のニーズに応える事業を展開
- ✓ 地域に根ざし安心して過ごせる介護と看護のサービスを提供



福岡市早良区
「アンペレーナ百道」

その他事業

- ✓ スタートアップ投資事業
- ✓ 障がい者就労支援事業
- ✓ 情報処理事業



2. 西部ガスグループの成長戦略

2022年

2024年

2030年

2050年

長期
ビジョン

西部ガスグループ
**カーボンニュートラル
2050**
2021年9月策定

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、グループとしての低炭素・脱炭素の取り組みを通じた地域社会への貢献を表明

西部ガスグループビジョン
2030
2021年11月策定

地域社会への貢献を軸に、2030年におけるありたい姿の実現に向けて、“つながりをチカラ”とするE S G経営の徹底を表明

戦略1 地域のカーボンニュートラルの実現に率先して取り組みます

戦略2 サステナブルな暮らしや地域社会を支える価値を共創します

戦略3 未来志向で価値創造の基盤を強化します

中期
計画

Next2024
西部ガスグループ中期経営計画(2022~2024)
2022年3月策定

西部ガスグループビジョン2030の到達点に向けて、今後3年間に注力する重点取り組み課題と目標値を設定

■ **経営指標** (西部ガスグループビジョン2030)

財務指標

売上高 **2,500億円**
経常利益 **150億円**

 **カーボンニュートラルの実現に向けた目標**

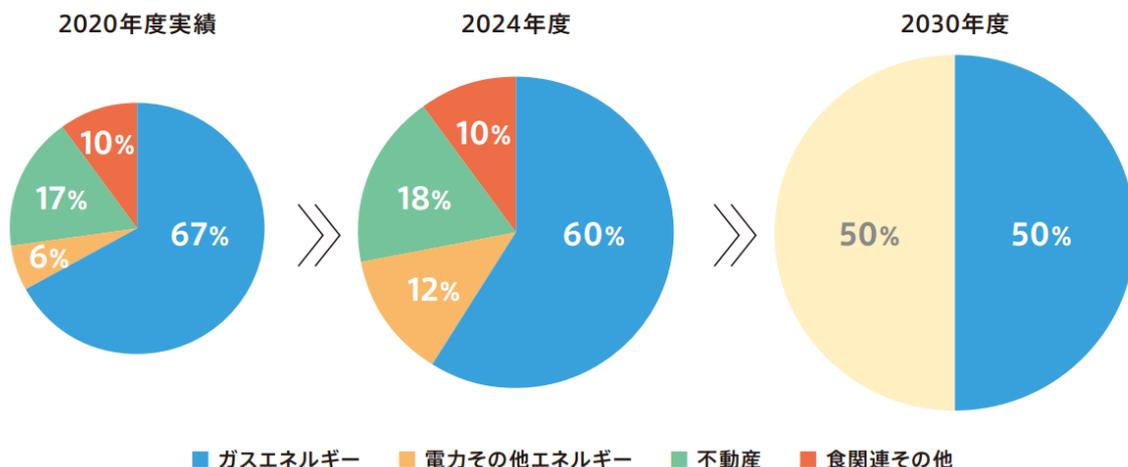
Co2排出削減貢献量	150万トン
再生電源取扱量	20万kW
ガスのカーボンニュートラル化率	5%以上

■ 基本方針

エネルギーとくらしの総合サービス企業グループとして、中核であるガスエネルギー事業の競争力強化を図るとともに、電力その他エネルギー事業や不動産事業を成長させます。

引き続き事業構造の変革に取り組み、ガスエネルギーとそれ以外の事業構成比を2030年度において同程度とすることをめざします。このために必要な経営資源をグループとして最適に配分し、利益の最大化を図ります。

■ 目標とするグループ事業構成（売上高）



■ 経営指標

	2024年度計画
売上高	2,300億円
経常利益	250億円※
ROA	1.5%
ROE	7.5%
自己資本比率	21.5%

※2022～2024年度計画合計

	2024年度計画
天然ガス取扱量	1,000千t
都市ガス販売量	980百万m ³
LPガス販売量	110千t
再生電源取扱量	75MW
CO ₂ 排出削減貢献量	50万t

■ トランジション期の天然ガスシフトによる低炭素化を推進するとともに、脱炭素化に向けた準備を着実に実施

燃料転換の推進

- ✓ 熱需要をターゲットに、環境性に優れた天然ガスへの燃料転換を推進

● 化石燃料の燃焼生成物の発生量
(石炭を100とした場合の発生量の比率)



出典:IEA「Natural Gas Prospects to 2010」(1986)

【業務用需要（大口）の推移】



ガスインフラ基盤の整備検討

- ✓ 天然ガスシフトの推進、LNGソースの多様化・分散化による危機に強いエネルギー供給体制の構築を目的に、ガスインフラ基盤の整備を検討

【燃料転換の潜在需要】
石炭・石油系需要合わせて
約70万トンの潜在需要を想定



【ひびきLNG基地を活用したアジアのLNG需要の取り込み】

- ✓ ひびきLNG基地の地理的優位性を活かし、タンクを活用したLNG保管/再出荷事業を強化



脱炭素に向けた取り組み

- ✓ e-メタン導入に向けた取り組みを推進

カーボンニュートラルLNGの導入

複数の民間企業、自治体へのカーボンニュートラルLNG供給の契約を締結し供給開始



イオンモールさま（北九州市八幡東区）

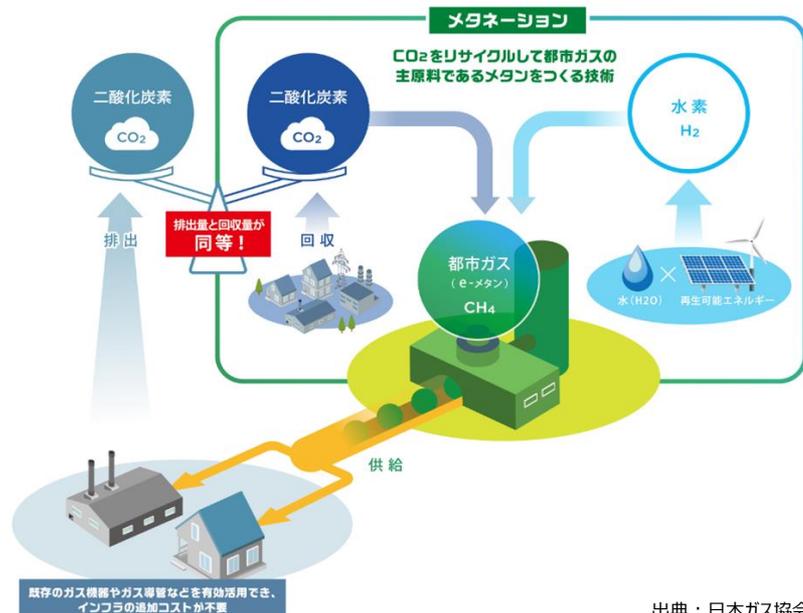


東邦チタニウムさま（北九州市若松区）

- 環境省事業（地域創生・セクター横断型CN技術開発・実証事業）に採択され、地域の原料を活用したメタネーション実証事業の開始
- 2050年に向けて、国内での実証試験に加えて、海外のサプライチェーン調査や革新技術の調査を含め、業界目標（都市ガス販売量に対するe-methane導入量：2030年1%、2050年90%）に向けて推進

メタネーションとは

- ✓ メタネーションとは、水素（H₂）と二酸化炭素（CO₂）から都市ガスの主成分であるメタン（CH₄）を合成する技術
- ✓ グリーン水素等の非化石エネルギー源を材料として、製造された合成メタンを「e-methane」と呼ぶ

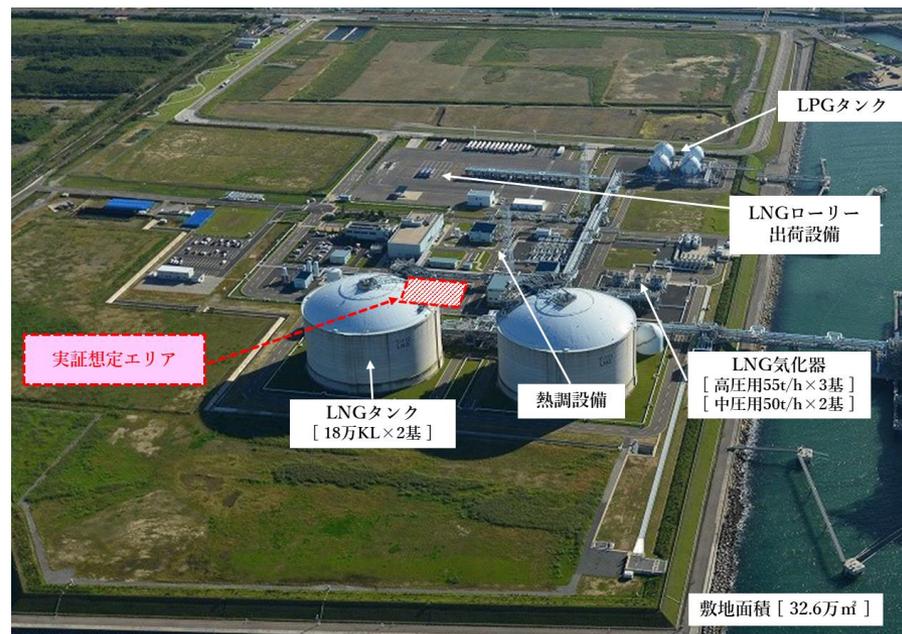


出典：日本ガス協会HP

(<https://www.gas.or.jp/gastainable/methanation/>)

実証事業

- ✓ 実証の場所については、メタネーション実証設備設置に十分な土地を有するひびきLNG基地内で実施



■ ひびき発電所の稼働を見据えた電力小売事業の強化、再生可能エネルギー事業の拡大を推進

電力小売事業の拡大

- ✓ 安定的な電源調達に向けて、共同出資により、ひびき発電所を建設(2026年3月稼働予定)
- ✓ 同発電所の稼働を見据え、電力小売り事業を強化

【ひびき発電所の運転開始】

出力	60万kW級
発電方式	ガスタービンコンバインドサイクル方式
出資者	九州電力、西部ガス
営業運転開始	2026年3月(予定)



再生可能エネルギー容量の拡大

- ✓ 太陽光発電、陸上風力発電に加え、新たに洋上風力等に電源種を多様化し、発電容量の拡大を目指す
また、FIT終了後は高度化法対応も含め自社電源としての活用も検討

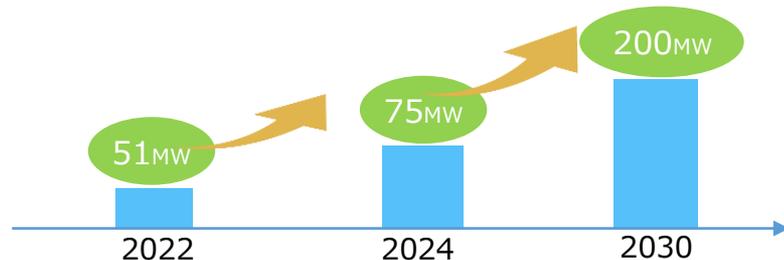


- ✓ 太陽光発電所17か所を運営(2022年度末時点)
- ✓ 2023年度も9月末時点で、エネ・シード山口防府第2太陽光発電所、エネ・シード八女太陽光発電所(第1、第2、第3)を運用開始



- ✓ 陸上風力発電所1か所を運営
- ✓ 北九州市響灘での洋上風力発電プロジェクト(2026年4月運営開始予定)

【再生可能エネルギー発電容量】



分譲・賃貸事業の拡大に加え、強みであるお客さま接点を活用した住まいや暮らしのサービスを強化拡充

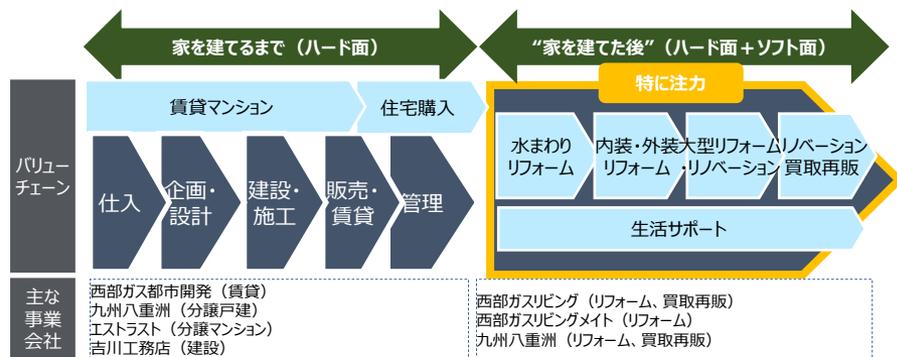
分譲・賃貸事業の拡大

- ✓ 分譲事業の拡大に加えて、賃貸事業の保有物件の蓄積を図り、事業の安定性を高めながら拡大
- ✓ 宅地開発や住宅・店舗建設など、不動産事業のサプライチェーン全体で事業拡大を推進

<p>住宅分譲 (マンション・戸建)</p>	<p>賃貸住宅</p>
<p>オフィス・商業施設など開発</p>	<p>リフォーム・リノベーション</p>
<p>不動産サービス</p>	<p>海外不動産</p>

不動産バリューチェーン強化

- ✓ エネルギー事業の幅広い顧客基盤を活用した不動産事業を強化
- ✓ 住まいのソリューションを軸に、新築、増改築、設備改善はもとより、生活サポート等の住まいに関わるサービスの提供を通じ、お客さまの生涯提供価値を向上



まちづくりの推進

- ✓ 都市ガス採用率向上に向けてSPCスキームを活用した開発事業を展開 (造成地 6 件1,145戸中1,021戸成約、分譲マンション 6 棟全戸成約)
- ✓ 地域コミュニティの支援、エネルギーの有効活用等に力点を置いた安心して住み続けられるまちづくりを推進

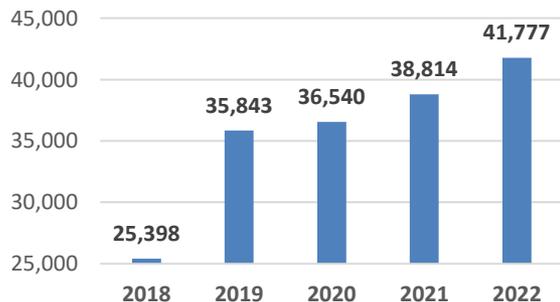
◇団地再生支援「宗像市日の里団地」



◇研究施設や商業施設、店舗、賃貸住宅で構成する複合研究開発次世代拠点「いとLab+」



単位:百万円 【不動産事業の売上推移】



■ グループ経営管理を高度化するとともに、お客さま視点でのDXや変革を牽引する人財育成を推進

資本コストを意識した経営

- ✓ グループ統一の投資評価基準、及び投資評価委員会を整備。新規投資から投資後のモニタリングまで投資評価の仕組みを強化し、リスクを抑制しつつ投資リターンを追求
- ✓ ROICをはじめとする各指標を活用した最適な投資配分やリスク管理等、実効性のある取り組みの整備

【投資評価プロセス（新規投資時）】



投資計画提出

意見書提出

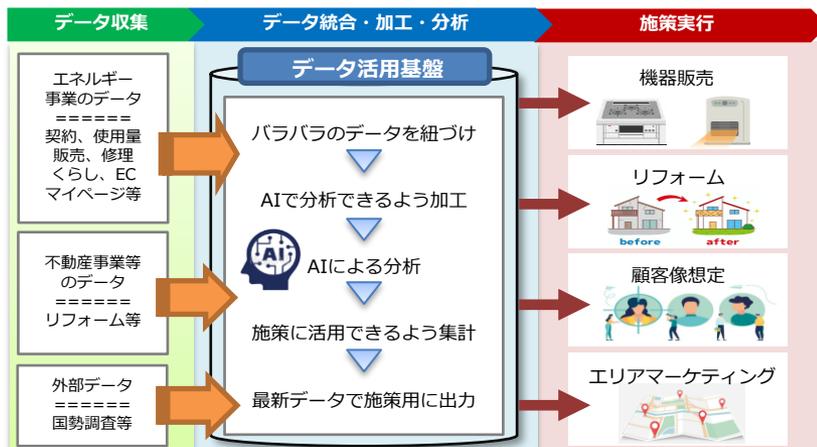


※事業別WACCに一定の超過リターンを加味したもの

お客さま視点でのDX推進

- ✓ 社内外のデータを活用し、お客さまのニーズ把握の精度を向上。強みである接点機会とデジタルチャネルを連携し、ニーズに応じた最適なタイミングで商品・サービスをご提供する取り組みを強化

【データ活用の流れ】



人的資本経営の推進

◇ソウゾウ大学

- ✓ 新たな価値創造や挑戦を後押しし、変革をリードする人財を育成するための企業内大学を創設。創業100周年を迎える2030年まで継続し、西部ガスグループ全体で250名以上の育成を計画

◇チャレンジ基金

- ✓ 「グループ社員の新たなビジネスへの挑戦」と「地域のエネルギー事業者の事業変革」を後押しする基金を創設

ソウゾウ大学

未来は、自分たちの手でつくるもの。西部ガスグループは、もう考えます。創業100周年に向けた「グループビジョン2030」では「人財」育成、挑戦を「つなぐ、未来をつくる」を掲げました。地域貢献のため、九州の地域や産業の発展、共創のよりよい暮らしのために、自分たちの手で、未来を変えていこう。その一歩は、「グループ社員の新たなビジネスへの挑戦」が第一。未来を担い、変革する人財を育成することを目的とする。学びの場であり、挑戦の場であり、仲間とつながる場。ソウゾウ大学、開校です。

開校

■ 財務指標

項目	2022年度（実績）	2023年度（見通し）	2024年度（計画）
売上高	2,663億円	2,650億円	2,300億円
経常利益	117億円	85億円	250億円※
ROA	3.3%	1.1%	1.5%
ROE	16.4%	5.5%	7.5%
自己資本比率	20.9%	21.0%	21.5%

※2022～2024年度計画合計

■ 営業指標

項目	2022年度（実績）	2023年度（見通し）	2024年度（計画）
天然ガス取扱量	775千 t	800千 t	1,000千 t
都市ガス販売量	892百万m3	930百万m3	980百万m3
LPガス販売量	108千t	115千t	110千t
再エネ電源取扱量	51MW	66 MW	75 MW
CO ₂ 排出削減貢献量	29.8万t	35万t	50万t

■ 設備投資

セグメント	2022年度（実績）	2023年度（見通し）
ガスエネルギー	87億円	130億円
電力その他エネルギー	13億円	30億円
不動産	86億円	100億円
食関連その他	11億円	10億円
計	197億円	270億円

3. 第3四半期の決算概要と業績見通し

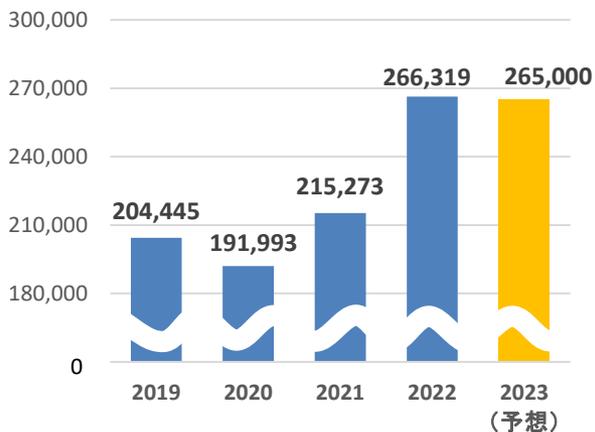
- ◆ 当第3四半期の連結決算は、経常利益ベースでは2022年度から2期連続の増収・増益、親会社株主に帰属する四半期純利益ベースでは2021年度以来2期ぶりの増収・減益となりました。
- ◆ 売上高は、ガス事業において前年同期と比べLNG価格の高騰を背景とした原料費調整によるガス料金単価の上方調整の影響に加えて、業務用ガス販売量が増加したこと等により、181,573百万円（3,387百万円増収）となりました。
- ◆ 経常利益は、ガス事業において売上高が増加したこと等により、2,955百万円（914百万円増益）となりました。
- ◆ 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に特別利益に計上していたハウステンボス株式の売却益8,460百万円の影響等により、1,954百万円（5,866百万円減益）となりました。

（単位：百万円、%）

項目	当四半期 (2023.4~2023.12)	前四半期 (2022.4~2022.12)	対前年同期		備考
			増減	増減率	
売上高	181,573	178,186	3,387	1.9	2021年度から3期連続の増収
営業利益	2,194	1,055	1,139	108.0	2022年度から2期連続の増益
経常利益	2,955	2,041	914	44.8	2022年度から2期連続の増益
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,954	7,820	△ 5,866	△ 75.0	2021年度以来2期ぶりの減益

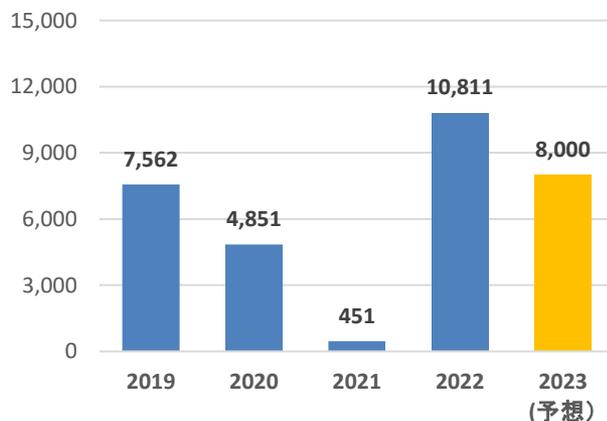
売上高

単位:百万円



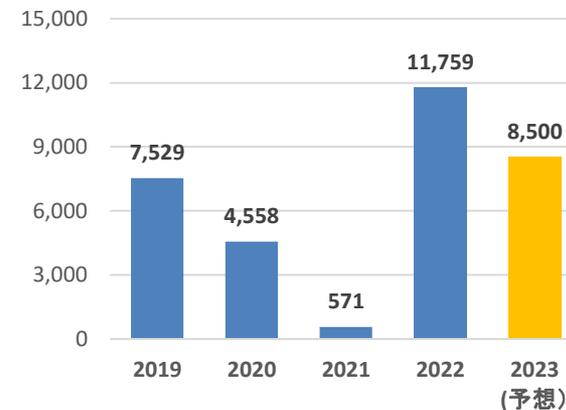
営業利益

単位:百万円



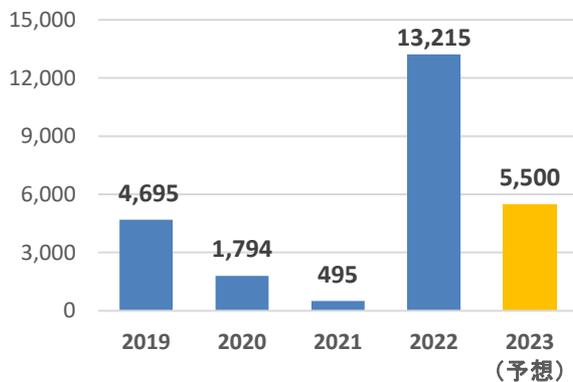
経常利益

単位:百万円



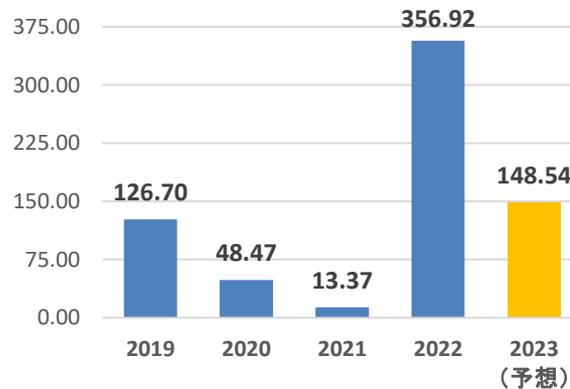
親会社株主に帰属する当期純利益

単位:百万円



1株当たり当期純利益

単位:円



4.サステナビリティへの取り組み

GPIFが採用するESG指数構成銘柄の初選定

- ✓ 当社は、環境・社会・ガバナンス分野におけるサステナビリティの取り組みを評価され、GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）がESG投資を行うための指標として採用している「FTSE Blossom Japan Index」および「MSCI ジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数」の2つの構成銘柄に2023年6月に初めて選定
- ✓ さらに、2023年12月には「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に初めて選定



FTSE Blossom Japan Index

世界的なインデックスおよびデータプロバイダーであるFTSE Russell によって作成された FTSE Blossom Japan Index は、日本で環境、社会、ガバナンス (ESG) を強力に実践している企業の業績を反映する業界中立のベンチマークとして設計されています。FTSE Blossom Japan Indexに含まれる企業は、環境、社会、ガバナンスのさまざまな基準を満たしています。



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index は、各セクターにおいて相対的に、環境、社会、ガバナンス (ESG) の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックスです。また、低炭素経済への移行を促進するため、特に温室効果ガス排出量の多い企業については、TPI経営品質スコアにより改善の取り組みが評価される企業のみを組み入れています。

2023 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数

MSCI ジャパン ESG セレクト・リーダーズ指数は、アメリカの大手金融サービス企業であるMSCI社が構築する MSCI ジャパン IMI 指数を親指数として、各業種の中でESG格付けが相対的に高い銘柄を選別して構成する指数です。

・<http://info.msci.com/l/36252/2017-06-27/kj6v2j/>

本ホームページに記載された商品・サービス名は各社の商標またはサービスマークです。

顧客満足度指数調査「ガス小売」部門 2年連続 第1位

- ✓ 西部ガス、西部ガス熊本、西部ガス長崎、西部ガス佐世保は、公益財団法人日本生産性本部 サービス産業生産性協議会が実施する、2022年度 日本版顧客満足度指数「ガス小売部門」において、昨年度に引き続き顧客満足度第1位の評価



「グッドキャリア企業アワード 2022」イノベーション賞

- ✓ 西部ガス絆結は、厚生労働省が主催する「グッドキャリア企業アワード 2022」において、イノベーション賞を受賞
- ✓ 西部ガス絆結は2017年に認可を受けた当社グループの特例子会社で、得意を生かし苦手を補い合うチームづくりで生産性を高め、黒字経営を行うことにこだわり続けてきた取り組みを評価していただいた



GOOD CAREER COMPANY
AWARD 2022
イノベーション賞

環境・資源保全推進活動

環境保全推進活動

- ✓ お客さま先や事業活動におけるCO2排出削減への取り組みや、循環型社会の形成に向けた3Rの取り組み等を積極的に推進
- ✓ 地域社会活動への参画、生物多様性への影響の回避または低減の取り組み



資源保全推進活動

- ✓ CO2排出削減が可能である「食品ロス」と「食品廃棄物」の削減を推進



フードロス削減に寄与する社会貢献型ショッピングサイト「ecoto (いいコト)」

TCFDへの賛同

- ✓ 2021年10月26日 TCFD提言に賛同
- ✓ TCFD提言に沿った気候変動対応に関する情報開示を実施



自治体との連携

- ✓ 当社グループの事業エリアを中心に、地域のカーボンニュートラルの実現に向けた連携協定を締結し、行政と一体となった取り組みを推進



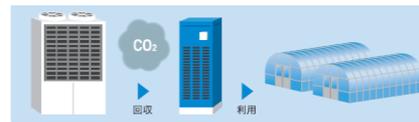
長崎市との連携協定締結式

- ✓ 長崎市と西部ガス長崎(株)は、「ゼロカーボンシティ長崎」の実現に向けた連携協定を締結
- ✓ カーボンニュートラル都市ガスの供給や、地域温暖化対策に関する意識醸成などについて連携、協働し、取り組む

学術機関等との連携

- ✓ 専門的な知見を有する学術機関や関連省庁、スタートアップ企業等との連携を図り、様々な分野から、脱炭素化に資する新たな技術の導入を目指す

九州大学との組織対応型連携
(都市ガス燃焼排ガスに含まれるCO2利用に関する共同検討開始)



ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン (DE&I) の推進活動

- ✓ 西部ガスグループを取りまく環境が大きく変化する時代において、多様な観点からお客さまに価値を提供し、地域社会の発展に貢献していくことは必要不可欠と考え、その実現に向け、ダイバーシティ (エクイティ) & インクルージョンを重要な経営課題の一つとして位置づけ

西部ガスグループ・ダイバーシティ宣言

西部ガスグループは、従業員一人ひとりが属性だけでなく異なる価値観・経験・想いなどをもった価値ある存在として、自分の考えを自由に発し、互いに認め合い、切磋琢磨しながら未来を切り拓く挑戦を積み重ね、新たな価値を生み出すことを可能とする社内環境を整備します。また、その環境のもと自らの力を最大限発揮できる活気あふれる組織の実現を目指します。

キャンティフォーラム



子育て期WLBサポートセミナー



イクボス式マネジメント講座



若手キャリア開発研修



西部ガスグループ表彰及び認定実績

日本でいちばん大切にしたい会社

- ✓ 西部ガス(株)は、第10回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞において、「審査委員会特別賞」を受賞
- ✓ また、西部ガスグループの西部ガス絆結は、第12回大賞において、「実行委員会特別賞」を受賞



えるぼし認定

- ✓ 女性活躍を推進



くるみん取得

- ✓ 女性活躍を推進



健康経営優良法人の認定

- ✓ 従業員の健康経営を推進



ワークライフバランスに関する表彰



西部ガスグループ について

- ・1930年の創業以来、北部九州を中心に、ライフライン事業者として、地域の皆さまに支えられながら発展
- ・人口減少、少子高齢化、エネルギー自由化による競争激化などの環境変化へ対応すべく、2021年4月よりホールディングス体制へ移行
- ・ガスエネルギー事業のほか、電力その他エネルギー事業、不動産事業、食関連事業などの事業を展開

西部ガスグループ の成長戦略

- ・西部ガスグループビジョン2030の到達点に向けて、中期経営計画「Next2024」にて重点取り組み課題と目標値を設定
- ・エネルギーとくらしの総合サービス企業グループとして、中核であるガスエネルギー事業の競争力強化を図るとともに、電力その他エネルギー事業や不動産事業を成長させる
- ・新たな時代に向けてグループ全体で取り組みを加速

主な経営指標と 業績の見通し

- ・当第3四半期の連結決算は、経常利益ベースでは2022年度から2期連続の増収・増益、親会社株主に帰属する四半期純利益ベースでは2021年度以来2期ぶりの増収・減益
- ・2024年3月期の見通しは、営業利益80億円、経常利益は85億円、親会社株主に帰属する当期純利益は55億円を見込む

西部ガスグループ のサステナビリティ

- ・ESG投資の代表的な指標とされている「FTSE Blossom Japan Index」などの構成銘柄に初めて選定
- ・環境保全、気候変動への対応や、ダイバーシティへの取り組みなど持続可能な社会の実現に向けた取り組みを強化

西部ガスグループは、西部ガスぐるぐるグループ。



地球と、暮らしに、
いい循環をつくるために。

資源とぐるぐる。
カーボンニュートラルを進め、
循環型の社会を目指します。

まちとぐるぐる。
行政やパートナー企業と連携し、
販わいのあるまちづくりに取り組みます。

人とぐるぐる。
グループ内の人財交流を活性化し、
変革をリードする人財を育成します。

みんなを巻き込んで、
しあわせの循環をつくっていきたい。
西部ガスぐるぐるグループです。

西部ガスグループ



 西部ガスグループ